

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、算数は、平均正答率が全国平均を大きく上回っている。国語は、集めた情報から文章を書くことや自分の経験と結び付けて文章を書くことの正答率が低い。
○話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりしている児童は多いが、図書の本や新聞から情報を得ている児童は少ない。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○データの活用については、全国的に低い傾向にある。都算研などの実態調査資料を活用して、学習展開の工夫を進めていく。
○中学年から高学年にかけて、振り返りなどの記述において字数制限を設けながら、内容の要旨を捉える経験を積ませられるようにする。
○児童が主体的に学ぶ力を高めるための、学習課題や方法を考えたり、選択したりできるような学習環境を整える。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

MIRAI SCHOOL いたばし～教育ビジョン2035・アクションプラン2028～の基本的な理念を踏まえ、「文章や情報を正確に読み解き、対話する力」「科学的に思考・吟味し活用する力」「価値を見付け出す感性と力、好奇心・探究力」の伸長を図る。
○文章や情報を正確に読み解き、多様な「対話」を通して「深い学び」を追究した授業革新を推進する。
○総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントを実施し、コミュニティ・スクールの強みを生かした教育活動を充実させる。
○「成増スタンダード」をもとに、学級規律の定着を図るとともに、指導計画、評価計画に基づいた適正な教育課程を実施する。また、「WebQU」の活用により、学級集団の状況や学級力を客観的に把握し、学力向上の基盤となる望ましい集団を形成する。
○高学年において教科担任制を行い、専門性の高い教科指導を実現し、より多面的な指導を図る、また、中学年においても一部単元で教科担任制を実施する。
○NEXTGIGAを踏まえ、一人一台端末を効果的に活用する。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び
板橋区授業スタンダードSの取組

○単元や一単位時間の学習の型を設定し、アウトプットまで見通しためあてを提示し、めあてに沿った振り返りを取り入れる。また、児童が主体的に学ぶ力を高めるために、学習課題や方法を考えたり、自己選択・自己決定したりすることができる学習環境を設定する。

視点2

ICT環境の適切な維持と活用
個別最適な学び・協働的な学びの実現

○一人一台端末を活用し、児童一人ひとりが自分の考えをもち、友達の考えを聞いたり、話し合ったりすることを通して、自分の考えと比較しよい点を取り入れながら、よりよい考えを創り出せるようにする。
○児童の学び方や学びの速度、順序等、児童一人ひとりに対して、それぞれの方法を児童自ら選択・決定させ、個別最適な学びを保証する。

視点3

総合的な学習の時間との連携

○コミュニティ・スクールの強みを生かして、地域資源・人材を活用した探究的な学習を行う。各教科とリンクし、SDGsなどの課題に対して重点的に時間を割り振り、教科横断的活動を意識したカリキュラムマネジメントを実施する。

■MIRAI SCHOOL いたばし～教育ビジョン2035～・アクションプラン2028～の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進

○「学びのエリア」で連携し、いじめ問題の解消、不登校への対応、中一ギャップの解消などの今日的な教育課題に則した活動を行う。
○「成増学びのエリア」でのめざす子ども像を共有し、9年間の学びを意識して、教科横断的な学習の推進と、小学校での教科担任制を軸に、「主体的・対話的で深い学び」の充実と「中1ギャップ」の解消をめざし、小中一貫教育の一層の推進を図る。

豊かな心と健やかな体の育成

○いじめ根絶に向け、いじめを許さない学級・学校風土の醸成を図る。また、いじめに関するアンケートを年に3回、学校独自の「心のアンケート」を年に8回実施し、児童の状況を把握し、全教職員で必要な情報を共有し、組織的な対応ができるようにする。
○特別活動の年間計画について、全教職員での共通理解をより一層深めていく。
○中休みの「全員外遊び」を励行する。

多様な教育的ニーズへの対応

○特別支援教室(STEP UP教室)との連携を密に行い、個別支援に生かす。
○学校生活支援シートの作成及び活用を通して、個の支えを充実させる。
○学校生活支援員、小1サポーターを活用し入学時適切なサポートを行う。
○巡回心理士、MIMの活用により個の見取りを個別支援に生かす。
○校内教育支援センターを充実させ、あいキッズとの連携を図り、児童の居場所を確保する。